

多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト

～みんなで180万年前の日本列島を探ろう～No.1

多賀町立博物館

2013/5/1

みなさんの力で一次発掘を無事終了

・・・180万年前の自然環境の変遷を探る手がかりがどっさり・・・

平成24年9月に（仮称）「アミンチュゾウを探せ！プロジェクト」立ち上げてから8ヶ月。関係の皆さまの支援・協力を得て一次発掘にこぎ着けることができました。まずは、（株）住友大阪セメント滋賀鉱産様をはじめ、発掘に協力して頂いた方々に、改めてお礼申し上げます。

・・・試掘から準備へ・・・

■はしかけとお助け隊

昨年11月の試掘でシカと思われる骨化石を発見。その後、琵琶湖博物館がはしかけ「古琵琶湖層化石発掘隊」を募り23名の方が登録されました。この「はしかけ」のメンバーは今年1月21日を皮切りに2月、3月と3回の学習会で発掘に関する基礎的な知識や技術を学びました。また、アミンチュプロジェクト藤井組からは、発掘ボランティア「発掘お助け隊」を募り、9人が登録されました。

■多賀町発掘隊

多賀町ではこれを機会に、郷土の自然のすばらしさを再発見してもらうために「多賀町発掘隊」を結成しました。隊員は小学生9人中学生2人保護者を含む大人11人の総勢22人で、他の事業では参加が少ない中学生も隊員として登録がありました。

■専門班

この発掘が学術的に意義のあるものとして内外に認めもらうためには、研究者の力が必要です。特に、今回はアケボノゾウが生息していたころの自然環境を総合的に調査することから、化石だけでなく各専門分野の研究者が関わりました。専門班には、琵琶湖博物館をはじめ、学校現場や地域の地学研究者などから18名が登録しました。

■事務局

事務局は参加者名簿作成や班編成および現場の準備を進めると共に、留守を預かる職員2人が関係者に贈る「発掘記念のオリジナルグッズ」を制作し、当日を迎えました。

以上の4つのグループが結集して総勢80人の発掘隊がスタートしました。



【調査団結成式 26日】



【発掘初日・・・お助け隊が受付】



【足跡化石の学習会】



【11月7日試掘の壁面からシカの骨】

多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト

～みんなで180万年前の日本列島を探ろう～No.2

多賀町立博物館

2013/5/1

・・・4月25日、26日準備・・・

4月27日 発掘の安全と成功を祈願してスタート

新年度になって、事務局は発掘参加登録や現場の事前準備に追われました。22日、23日には図面作成や重機による整地を実施。25日と26日には専門班による直前準備と発掘計画について話し合いました。

■ 結成式

発掘の前日、プロジェクトの趣旨を広く知って頂くために久保町長と円城寺教育長に出席頂いて「結成式」を行いました。また、多賀観光協会から「たがゆいちゃん」アミンチュプロジェクトからは「野洲のおっさん」のマスコットキャラクターが参加し、式を盛り上げて頂きました。取材した新聞社や放送局は「古代ゾウ」と「研究者とともに発掘し、楽しさや学ぶ喜びを共有する」というコンセプトに関心を持ったようです。

■ 発掘初日 27日は54名で・・・

初日、発掘お助け隊は博物館に早く集合、早速、参加者の受付をしました。受付の済んだ人はマイクロバスに乗り、現地まで移動しました。参加者のみなさんが要領よく、てきぱきと動いて頂いたおかげで、開会式は予定どおり9時に始めることができました。

■ 開会式

開会式は、団長挨拶のあと、各グループから代表の決意を述べてもらいました。前日の結成式に続いてマスコットキャラクターも参加、応援メッセージもありました。その後、発掘の安全と成功を、多賀大社宮司に祈願して頂き、鍬入れ式にて式は終了しました。

■ まずは、現場の説明から

参加者が現場の全体像を理解するために、専門班から説明がありました。特に、20年前にアケボノゾウが発見された地点では力が入りました。また、前回と今回の発掘を結びつける鍵層の四手火山灰層について露頭の前で説明がありました。さらにトレンチされた地層の断面を見た後、足跡について説明がありました。



【25日 事前の検討会】



【開会式ではしかけから決意】



【代表による鍬入れ】



【マスコットキャラクターも応援】

多賀町古代ソウ発掘プロジェクト

～みんなで180万年前の日本列島を探ろう～No.3

多賀町立博物館

2013/5/1

4月27日 さわやかなお天気 “パオーン”の響き、心地よく

事前の準備で発掘の手順を打合せましたが、どのように掘っていくか、一次発掘では未知の部分が大半でした。従って、今回は先ず、発掘範囲全域にわたって調査し、何がどこに、どれくらい有るか確認する作業から入りました。

■編成は6班で

調査は4m四方に区切られた25区画のグリッドを6つの班で分担するところから始めました。1, 2班は北側の10区画のグリッドで足跡調査を実施。3, 4班は3と4のグリッドの観察。そして、5班、6班は四手火山灰から約1.2m上位に当たる18と19のグリッドの観察から始めました。

■専門班は

専門班はトレンチの断面で層準を確認しながら掘る人、トレンチ内の泥水に浸かりっぱなしで断面を観察する人、発掘地の全体像をスケッチするため周辺を歩く人、各グリッドからの問いかけにグリットを渡り歩く人、そして、座り込んで地面を削り続ける人など様々なのが専門班の活動です。

■注目された発掘

プロジェクトが立ち上がってから、多くの報道機関が発掘の動向に関心を持っていました。初日には関西TV、びわこ放送の取材が終日行われ、さらにNHK 大津支局は発掘期間中のほぼすべてを収録しました。連休明けの5月の中旬に放映されるようですが、この発掘が、記者の目からどのようにとらえられたのか興味があります。

■初日はパオーン

事務局にとって、初日を迎えるまでが大変。初日はもっと大変かと思っていましたが、開会式の“パオーン”で勢いづかせて乗り切りました。午後は参加者が目の色を変えて発掘に集中。事務局長の「休め」の号令にしぶしぶ止める姿に一次発掘成功の手応えを感じました。



【発掘プロジェクトの合い言葉】



【表面を丁寧に観察】



【観察が済んだら、掘り始める】



【NHKから取材】

多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト

～みんなで180万年前の日本列島を探ろう～No.4

多賀町立博物館

No.4 2013/5/1

4月29日 グリッド15から骨が出る 骨化石層は広がり、続いている

発掘2日目は51人の発掘隊が参加、若葉をそよがせて吹く風と、雑木林から聞こえてくるウグイスの声に癒されて発掘が進みました。時間が経つにつれて発掘隊には化石を捉える目が養われ、植物化石をはじめ貝、昆虫などを次々と発見。終わりの会では、成果を報告する各班の弾んだ声が聞けました。

■3日目は絞り込んで

3日目は46人の発掘隊。1, 2班は足跡化石の断面を観察、足跡を付けた動物を確定する作業を進めました。一方、化石が集中して出てくる層とそうでない層が2日間の調査で確定。一方、骨化石が埋まっていると推定していた18と19のグリッドでは、未だその痕跡さえも捉えることができません。そこで、3～6班は位置をずらして発掘。特に5のグリッドを調査していた専門班は15のグリッドに移動、トレンチの壁面を観察しながら掘り進めました。

■2カ所目の骨化石

15グリッドを掘り始めてまもなく、トレンチ溝のすぐ側からシカと思われる2点の骨化石が発見されました。「出た」の声で、2日間の疲れとお目当ての化石が出ないあせりのムードが一変、現場に活気が戻りました。その後、多賀町発掘隊も、3mほど離れた粘土から骨を発見しました。

■二次発掘を念頭に

4月30日は雨の予報のため思い切って終日発掘は中止。翌1日は平日ということもあり、発掘隊は19人と半分以下となりましたが、二次発掘のことを頭に置きながらの大切な最終日となりました。トレンチで花粉分析の試料が採取されましたが、その他この日に発見された化石に前日までと異なる種類は有りませんでした。

■約300点の化石等

今回の発掘で採取した化石は植物196点、貝40点、昆虫24点、咽頭歯3点、骨5点、不明4点および分析試料が32点でした。



【骨の層はこのあたり】



【シカの肋骨?】



【大型の植物化石オオハラモミ?】



【野洲のおっさん焼きの差し入れ】



【地層について説明を聞く】